

福島県大熊町 一時帰宅に同行

東日本大震災による福島第1原発事故の影響で、全町民が避難した福島県大熊町。町の95%が帰還困難区域とされ、茨城県にも331人(4月10日現在)が避難している。先月下旬、大熊町に家を持ち、現在は水戸市に住む50代の男性の一時帰宅に同行した。目にしたのは想像を絶するほどに荒れた家屋、帰ることができない人たちの現実だった。

(今仲信博)

第1原発から数キロ

原発から数キロ離れた場所に位置する男性宅。スクリーニング場で防護服などを受け取った後、さらに車で約20分。途中、商品が倒れたままの商店や、雑草が伸び放題となった田んぼが目に見え込んでくる。

男性宅の庭や周辺の道路には、震災で落ちて割れた瓦が



浪江町では、道路脇にがれきが山積みになったままだった

帰ることができぬ現実



天井が抜け落ちた部屋で放射線量を測定する男性。3月23日、福島県大熊町

散乱していた。家の中は腐った畳からキノコが生え、瓦が落ちた屋根は修復できず、2階は雨の影響で天井が抜け落ち、カビで青く染まった天井板が床に積み重なっていた。一時帰宅の際、家の中の放射線量を必ず量るという男性。「いつか何かの役に立つだろう」と、この日もすべての部屋を測定した。

終の棲家のはずが

男性は茨城県出身。仕事で福島県に移り、大熊町に家を持った。その後、茨城に転勤となったが、定年後は大熊町に戻る計画を立てていた。この家が「終の棲家」のはずだった。だが、震災で事態は急変した。

平成23年8月から、今回で7回目となる一時帰宅。目の当たりにするのは、どんどん損傷が激しくなる家の状態だ。訪れた日は枯れていた庭の草も、夏場は身の丈ほどの高さになるという。「梅雨になったら人が入るのも厳しくなる。駄目だね。これももう、住めないね」。男性はあ

茨城



水戸支局

〒310-0021

水戸市南町3-4-57
水戸セントラルビル2F

☎ 029・221・7158

FAX 029・222・2407

mito@sankei.co.jp

販売 029・225・1481

広告 029・240・3939

購読申し込み

0120・76・2950

配達・集金

0120・34・4646

紙面・記事

03・3275・8864

Web

http://sankei.jp.msn.com/region/region.htm

あすのこよみ

(18日)

旧3月9日

《大安》

